

## ○グループインタビュー調査

本調査は、平成31年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)に採択された「薬価制度抜本改革に係る医薬品開発環境および流通環境の実態調査研究」の一環として行うものであり、医薬品流通の改善のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

グループインタビュー調査では、薬の服用習慣や薬価制度に対する意識などについて探索的にアプローチすることで、定量調査に向けた課題設定を行った。

1. 調査方法 グループインタビュー調査
2. 調査対象 首都圏(一都三県)在住の40代~70代の男女
3. 調査実施数  
4名×4グループ=16名  
\*年代と医療用医薬品の服用頻度の高低で下記のとおりグループ分けを行った。
  - (1) 現役世代(40代・50代)で医療用医薬品の服用頻度が高いグループ
  - (2) 現役世代(40代・50代)で医療用医薬品の服用頻度が低いグループ
  - (3) シニア世代(60代・70代)で医療用医薬品の服用頻度が高いグループ
  - (4) シニア世代(60代・70代)で医療用医薬品の服用頻度が低いグループ
4. 調査期間 令和2年11月7日
5. 調査結果 現在精査中

## ○インターネット調査

グループインタビュー調査によって得られた定性的なデータを元に質問紙を作成し、インターネット調査を行った。年代や医療用医薬品の服用頻度に応じて消費者の意識や行動が異なるのかを検証することを目的とした。

1. 調査方法 インターネット調査
2. 調査対象 全国の20代~80代の男女
3. 調査実施数  
スクリーニング調査 9,739 サンプル  
本調査 1,938 サンプル  
\*スクリーニング調査において、医療用医薬品の処方頻度に応じて
  - (1) ヘビーユーザー(処方頻度が月に2~3回以上)
  - (2) ミドルユーザー(処方頻度が2~3か月に1回以上)
  - (3) ライトユーザー(処方頻度が半年に1回以下)
  - (4) 医療用医薬品の処方無しの4区分に分類し、(1)と(2)を本調査対象者とした。
4. 調査期間 令和3年2月5日~2月8日
5. 調査結果 現在精査中